

伊勢市のシティプロモーションを考えるワークショップ 結果概要

日時:平成 28 年 1 月 20 日(水)18 時 30 分～21 時 00 分

場所:伊勢市観光文化会館 4階会議室

参加者:26 人(団体 8、大学生 8、市職員 10)

第1部 あなたが魅力的だと思う伊勢市の地域資源・ストーリー・体験

「場所」「産品」「祭り・イベント」「食・グルメ」の4テーマのテーブルにそれぞれ6～7人ずつ座り、15分ごとにテーブルを移動するワールドカフェ方式で、それぞれのテーマについて意見交換を行いました。(15分×4ラウンド)



【以下、各テーブルのホストによる発表】

A. 場所

(神宮)

- ・朝一番の参拝が良い。
- ・徴古館とその周辺に整備された遊歩道が良い。
- ・他と違う厳かな雰囲気がある。

(二見)

- ・雨が降る日は夫婦岩を訪れる人が少ない。
- ・雨の日でもたくさんの方が訪れるような工夫ができると良い。
- ・冬の夕方に見る月がきれい。

- ・二見十景と呼ばれる名所を発信していくことも大切。

(自然)

- ・宮川の堤は、上流から下流まで美しく、家族連れで散歩を楽しめる。
- ・あまり知られていないが、県営陸上競技場から楠部と鹿海を通って二見に抜ける道があり、その自然の中の道をサイクリングするのは楽しい。

(建造物)

- ・市内には世古や寺社など古いものが残っている。バス停や通りの名前を古いものに戻したり、伊勢らしさを感じられる名前にしたりするのも面白い。
- ・市内にはいろいろな石碑がある。大湊には県で最大の石仏がある。

(その他)

- ・皇學館大学の学生と観光客がもっとつながることができるのが良い。

B. 産品

(情報発信)

- ・伊勢は情報発信が下手であると感じる。
- ・伊勢や三重がケンミンショーでもっと取り上げられるようになってほしい。
- ・良いもの、新しいものがあるにもかかわらず、伊勢の人の人間性かも知れないが、情報発信ができていない。もっと情報発信していくことが大切。

(伝統工芸)

- ・伊勢春慶、根付、木札、一刀彫などあるが、後継者が不足している。
- ・生活していくのが難しいため、若い人に「後継者になって」と言いづらいが、どのように伝統工芸を残していくのかを考えたとき、一つの方法として情報発信をしていくことは大切。

(まちなみ)

- ・外宮参道は昔お客さんが多くなかったが、再生されてきた。おはらい町も整備が進んできた。まちなみも、産品の一つと捉えて、情報発信していける。

(食べ物)

- ・餅菓子、さめのため、干しあなご、など。
- ・蓮台寺柿の「熟し(ずくし)」を美味しく食べる方法をPRしたい。

C. 祭り・イベント

(大きいイベント)

- ・神宮に関するお祭り、宮川の花火大会、お白石持行事 など。

(小さいイベント)

- ・饗宴、よいまちバル、キャンドルナイト、五十鈴公園のクラフトイベント、河崎古本市 など。

(情報発信)

- ・情報発信により、イベント自体が活性化する。
- ・市民でも知らない祭りやイベントがたくさんある。お祭りカレンダーのようなものがあると良い。
- ・おしゃれなイベント、若者が集まるイベントの情報を発信すると良い。
- ・フェイスブック、ツイッター、ラインなど SNS を活用すると良い。
- ・小さいイベントが盛り上がれば、人の交流が活発になり地域力が上がる。

D. 食・グルメ

(餅・だんご)

- ・みたらしだんごは、全国的に醤油味ベースが多い。甘い黒みつのだんごは、伊勢の外ではあまり知られていない。
- ・二軒茶屋餅やへんば餅の名前にまつわるストーリーは、市内でも若い世代には意外と知られていない。

(伊勢うどん)

- ・伊勢うどんの食べ方は、チャーシュー、あおさをトッピングするなど、本流ではないが、いろいろな可能性がある。
- ・カレーうどんの麺まで伊勢うどんなのは面白い。
- ・伊勢うどんの麺は、昔はもう少し太かったような気がする。

(その他)

- ・モリスパやまんぷく食堂などのB級グルメ、また、田舎あられ、朝熊小菜、地ビール、固パンなどの伊勢の食を、ストーリーと共に発信すると良い。

【ファシリテーターまとめ】

- ・伊勢には面白いものがとてもたくさんあるが、伊勢の外から来た人にとっては、言葉で説明してもらわなければその面白さが分からないことがある。
- ・地元の人にとっては、地元の面白いところ、他と違うところに気付にくいのが、言語化して、面白さを伝えてほしい。若い人には、伊勢や三重の良いところ、面白いところ、に気付いてほしい。
- ・注連縄を一年中飾っている、小さい頃から伊勢うどんを食べて育ってきた、など、外から来た人の目から見ると伊勢の普段の生活の様子が面白いと感じる。物語にしてまちの面白さを伝えていくという方向性が出てくると良い。
- ・交通手段が不足すると、地元の人と観光客の行く場所が分かれてきて、交流が難しくなるが、面白い場所をアピールしていくことが大切。



第2部 伊勢市のイメージから考える伊勢市の「ロゴ文字」のかたち

第1部で意見交換した内容を基礎に、シティプロモーションで用いる伊勢市の「ロゴ文字」を考える場合に、どのようなイメージ・雰囲気が良いかについて、意見交換を行いました。

【以下、各テーブルの代表者による発表】

Aグループ

伊勢のイメージとしては、品格と普遍性があると考えた。色などで主張するのではなく、墨でシンプルに文字を書いてロゴとして使っていくのが伊勢らしい。筆文字は外国人に受けが良いし、東洋の雰囲気も出る。

Bグループ

筆文字で、色は「生成りの文化」を表現する茶色とした。茶色で神宮や産品もイメージしている。文字と文字の間にアルファベット「ISE」を配置した。アルファベットの色は森林をイメージする緑とした。日本らしさを表現しながら、海外にも発信できるロゴとした。

Cグループ

神宮の鳥居、天照大神の太陽のイメージを考えた。文字の色は、海外の人は原色を好むと聞いたことがあるので目立つ色が良い。伊勢うどん、注連縄などのイラストを入れることで、これが伊勢の文化であることを気付いてもらえる。また、キャッチフレーズも付けることで、伊勢を理解してもらえる。

Dグループ

地平線上にある太陽とグラデーションの背景で、生まれ変わるイメージ、「とこわか」を表現した。文字の色は、若々しい緑とした。また、もう一つの案として、伊勢市の「市」の文字を、太陽、鳥居、はなてらすちゃんて表現した。



【ファシリテーターまとめ】

- ・いろいろな視点を基に、それぞれの方向性があるということ。
- ・筆文字とする視点や図柄と組み合わせる視点が複数あった。

以上